

## 令和4年度 学カスタンダード指導計画・報告書

教科:(英語)科目:(コミュニケーション英語Ⅱ) 対象:(第3年1組～5組)

科目担当者:1～5組 入川・川島・清水・鈴木健・富田・松下・松村

教科・科目の 指導目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書で扱う基本単語・基本熟語に繰り返し触れることにより、口から自然に出てくるように体にしみ込ませて覚えることができる。</li> <li>教科書本文について、挿絵等の情報を基に大意を把握し、その扱う題材について考えることができる。</li> <li>オーラルコミュニケーション等、自らを表現する活動に積極的に取り組むことができる。</li> </ul>
----------------	--

	高校入試等の分析結果・前年度の学力調査分析結果	分析結果を踏まえて検討した指導内容	指導体制の確立
年度当初	<p>語彙や文法、読解力等の点で、基礎学力が不足した生徒が目立つ。英語に対する苦手意識を払拭できず、モチベーションを高められない生徒が多い。</p> <p>一方で、実際的なコミュニケーションを伴う活動に対し、非常に熱心な生徒も存在する。</p>	<p>1 生徒の発話機会を重視し、生徒自身が主体的に授業に参加できる授業を展開する。</p> <p>2 オーラルコミュニケーション等、自らを表現する活動を積極的に取り入れ、英語による実践的なコミュニケーション能力を育成する。</p> <p>3 教科書で扱う基本単語・熟語に繰り返し触れさせ、体に染み込ませることにより、その定着を図る。</p>	<p>1 ペアワークやグループワーク、ミングリング等、種々の活動体形を取り入れて、生徒の主体性を引き出す。</p> <p>2 生徒の「コミュニケーションを取ろうとする姿勢」を評価し、評定に反映する。</p> <p>3 単語・熟語の定着活動を繰り返し行うとともに、定期的に単語テストを実施する。</p>

	生徒の変容	生徒の学力の定着状況	次年度に向けた指導体制の改善
年度末			